

受講番号 18028 学校名 高知小津高校 氏名 吉岡 佐紀

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 41名
 科目名 英語、OC 単位数(授業時数) 6時間 使用教科書名 One world English course, Planet blue OC

クラスの様子・特徴

活気があり、発問に対する反応が良い。音読の声がよく出る。素直で表現力もあるので、授業者と一体となった授業を展開することができる。今年度の1年生は学年を通じて授業の進め方や、動機づけを統一しているので指導がとおりやすいと感じる。

問題の確定

発問に対する反応の良さ、音読の様子から、理解できている、学んだ英語を使いこなしているという錯覚に陥ってしまっている。

予備調査

A 授業の観察

授業に対する積極性や新しい内容に関する好奇心は旺盛である。しかし、校外模試等で結果が芳しくないなど、生徒自身の意欲に対しての結果が正比例しないことにもどかしさを感じている様子である。一学期と比較すると予習が甘くなってきている。

B 生徒による授業評価

授業への参加度、興味関心は高い。不満としては、きちんとやっているのに結果が伸びない、文を読む際分からない単語が多すぎるという意見がある。要望は板書の工夫、単語の発音をもっと詳しくやってほしい、ゆっくり説明してほしいなどがある。

C 学力データ

本校の1年生は7クラスすべて授業方法を統一している。実力テストや校外模試での平均点は各クラスほぼ同じである。授業者のクラスは文法はそこそこだが、長文読解においてポイントが低い。

リサーチ・クエスチョン

音読指導を利用して4技能を向上させ、大学入試に対応できる英語力をつけるには

仮説・実践・検証

仮説1

音読ができれば英文聞き取りができるようになるのではないかと、身に付けている単語やフレーズは、読まれる速度が速くても、音声で連結していても聞き取ることができるだろう。

実践1

OC のディクテーションの時間、週末課題(CDつき教材)を利用して使用頻度の高い表現のリズニングに慣れさせる。シャドーイングの励行。ALTの協力を得て、重要表現の反復学習を行う。

検証1

OC の定期試験でディクテーションを行った。試験範囲はある程度指定されている。フレーズを聞き取って理解するところまでは達成されている。しかし、正しい綴りで書くことができていない。音声と綴りの一致が課題である。シャドーイングは数回行う程度にとどまったが、難易度の高さの割には物怖じせずついてきたので、今後の伸び幅を感じられた。

仮説2

音読ができれば英文が読める(理解できる)ようになるのではないかと。

実践2

英語 の教科書をフレーズごとに区切ったシートを配布(学年共通)。フレーズごとの内容理解や解説を行った後、パターンを変えて何度も音読する機会をつくり、単語やフレーズのリズムに慣れさせる。投げ込みで速読を行っているが、ゲーム感覚で、4分間みごとな集中を見せる。文法の教科書の例文を日本語文をみて英文が出てくるくらいにくりかえし音読させる。最終的には暗誦できるように。

検証2

フレーズシートは生徒にとって「一口ぶん」なので、英語に苦手意識を持つ生徒にとっても、取り組みやすいようである。文法は例文に慣れてきたら、主語を変えたり生徒の日常生活に関連する内容を言わせてみたりした。その際の達成度は高いが、理解がはやい故に自信を持ちすぎて、自分で反復学習をすることができていないことが伸び悩みの最大の原因ではないのか。

仮説3

音読ができれば英文が書けるようになるのではないかと。クラスでは、語句整序で苦労している生徒が多い。音読し暗誦することで文の構成が身につくのではないかと。

実践3

英語 のレッスンごとに音読筆写をさせる。試験前にも効果的な学習法であることを強調する。定期試験では指定されたパラグラフをそのまま書くというもの、事前に予告し行った。

検証3

仮説に対して、この分野がいちばん達成が難しいと思った。パラグラフを丸ごと書く試験では、範囲が決まっていたにもかかわらず、苦戦している生徒が多かった。英文が書けるということは、文構成が理解できる、綴りが正しく書けるという2段階のスキルが少なくとも必要である。今回は音読と綴りを一体化させることに大きな課題が残った。

研究の成果

学年団で統一された授業をベースに、入学当初の活気、意欲を学校になれてきた二学期以降も持続させるよう授業を行ってきた。生徒が参加しやすい、表現しやすい、質問しやすい環境は整った。音読は毎時間行っている。試験では、指定された範囲を英語ですべて書く問題や、本文の語句整除、穴埋め問題など、音読や音読筆写の学習をベースにした試験を行っている。画期的な手ごたえは現在のところは感じられないが、本校入学からのデータを見ると入学後わずかに偏差値はあがっている。力をつける、伸ばすという作業はなんと地道なものであるかと痛感している。

今後の授業改善の課題

既習事項の定着が甘いと感じられる。生徒自身多忙で、与えられる内容が多すぎて表面だけをなぞっていく学習パターンが身についているのではないかと。生徒自身が自ら手を伸ばし学習していくのが理想であるが現時点では困難である。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-822-5270

電子メール

saki_yoshioka@kt5.kochinet.ed.jp